苛政は虎よりも猛なり

名前（　　）　日づけ（　／　）　できた数（　／28）

使い方　書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。**この話の山は使役「AをしてBしむ」、比較「猛於虎（虎よりも猛なり）」、そして婦人がこの土地を去らない理由**です。

あらすじ＝孔子が泰山のそばを通りかかると、墓の前で声をあげて悲しげに泣いている婦人がいた。孔子は車の上で敬礼して耳をかたむけ、弟子の子路にわけをたずねさせる。婦人は、夫の父も、夫も、そして今度は子どもまでも虎に殺されたと答えた。孔子が「どうしてこの土地を去らないのか」とたずねると、婦人は「ここにはむごい政治がないからです」と答える。孔子は弟子に「よく覚えておけ。むごい政治は虎よりもおそろしいのだ」と言った。

一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

孔子（こうし）、①泰山（たいざん）の側（かたはら）を過（す）ぐ。婦人（ふじん）の②墓（はか）に哭（こく）する者（もの）有（あ）りて哀（かな）しげなり。③夫子（ふうし）式（しよく）して之（これ）を聴（き）き、④子路（しろ）をして之（これ）に問（と）はしめて曰（い）はく、「⑤子（し）の哭（こく）するや、⑥壱（いつ）に重（かさ）ねて憂（うれ）ひ有（あ）る者（もの）に似（に）たり」と。

⑦而（すなは）ち曰（い）はく、「然（しか）り。⑧昔者（むかし）吾（わ）が舅（しうと）虎（とら）に死（し）し、⑨吾が夫（をつと）又（また）死し、今（いま）吾が子（こ）又死せり」と。

夫子曰はく、「⑩何為（なんす）れぞ去（さ）らざるや」と。

曰はく、「⑪苛政（かせい）無（な）ければなり」と。

夫子曰はく、「⑫小子（せうし）之を識（しる）せ。⑬苛政は虎よりも猛（まう）なり」と。

語注　泰山＝今の中国・山東省にある名山。哭す＝人の死を悲しんで、声をあげて泣く。夫子＝先生。弟子が師を呼ぶときの敬称で、ここでは孔子。　式す＝車の前の横木（式。「軾」とも書く）に手をかけ、身をかがめて敬意を表す。子路＝孔子の弟子。子＝あなた。ここでは婦人を指す。壱に＝まったく・いかにも。憂ひ＝ここでは、身内を亡くすような不幸・悲しみ。舅＝夫の父。昔者＝以前・むかし。苛政＝人々を苦しめる、きびしくむごい政治。小子＝師が弟子に呼びかける語。おまえたち。識す＝心にしるす・覚えておく。※白文の「使子路問之」を「使子貢問之」（子貢をして之に問はしめて）とする本もあります（子貢も孔子の弟子）。この問題は「子路」の本文で作りました。お使いの教科書に合わせてください。※「壱」は、原典では旧字体の「壹」で書かれています。※文末の「焉」は、この問題では置き字として読みません。「於是（ここに・これに）」の意味をふくむ字と説明する教科書と、断定・強調の調子をそえる字と説明する教科書があります。また、「吾が夫又焉（これ）に死し、今吾が子又焉（これ）に死せり」と、「焉」を「これに」と読む教科書もあります。※「而曰」の「而」は、古い注（鄭玄の注）に「而は乃（すなはち）と同じ」とあるのにしたがって「すなはち」と読みました。書き下しの送り仮名などは教科書によって少しちがうことがあります。お使いの教科書に合わせてください。

A　語句の意味と読み（1〜7）

（1）①「泰山（たいざん）の側（かたはら）を過（す）ぐ」の「側」の読みを現代仮名遣いの平仮名で書き、意味も書け。

（2）②「墓（はか）に哭（こく）する」の「哭する」の意味を書け。

（3）③「夫子（ふうし）式（しよく）して之（これ）を聴（き）き」の「式して」の意味を書け。

（4）⑥「壱（いつ）に重（かさ）ねて憂（うれ）ひ有（あ）る者（もの）に似（に）たり」の「壱に」の意味を書け。

（5）⑧「昔者（むかし）吾（わ）が舅（しうと）虎（とら）に死（し）し」の「舅」の意味を書け。

（6）⑪「苛政（かせい）無（な）ければなり」の「苛政」の意味を書け。

（7）⑫「小子（せうし）之を識（しる）せ」の「識せ」の意味を書け。

B　句法（8〜13）

（8）④「子路（しろ）をして之（これ）に問（と）はしめて」の白文は「使子路問之」で、使役の句形である。この句形の読み方と意味を書け。

（9）⑤「子（し）の哭（こく）するや」の「や」と、⑬「苛政は虎よりも猛（まう）なり」の「なり」は、白文ではどちらも「也」である。それぞれの働きを書け。

（10）⑥「壱（いつ）に重（かさ）ねて憂（うれ）ひ有（あ）る者（もの）に似（に）たり」の白文は「壱似重有憂者」である。この書き下し文の読み方になるように、白文に返り点をつけよ（送り仮名は不要）。

（11）⑧「虎（とら）に死（し）し」と⑬「虎よりも猛（まう）なり」は、白文ではどちらも「於虎」をふくむ（「死於虎」「猛於虎」）。それぞれの「於」の働きを書け。

（12）⑨「吾が夫（をつと）又（また）死し」の白文は「吾夫又死焉」で、文末に「焉」がある。この「焉」は、本文の書き下し文ではどう扱われているか。また、どのような意味をふくむと考えられるか。

（13）⑩「何為（なんす）れぞ去（さ）らざるや」の「何為」の読みと意味を書け。また、この文は疑問・反語のどちらか。理由も書け。

C 主語・指す内容（14〜17）

(14) ③「夫子（ふうし）式（しよく）して之（これ）を聴（き）き」の「夫子」とは誰か。また、「之」は何を指すか。

(15) ⑤「子（し）の哭（こく）するや」の「子」は誰を指すか。また、この言葉を口にしたのは誰か。

(16) ⑦「而（すなは）ち曰（い）はく」の主語は誰か。また、そのあとの「然（しか）り」は、何をそのとおりだと認めているのか。

(17) ⑫「小子（せうし）之を識（しる）せ」の「小子」は誰を指すか。また、「之」は何を指すか。

D 口語訳（18〜21）

(18) ①②を含む「孔子泰山の側を過ぐ。婦人の墓に哭する者有りて哀しげなり」を口語訳せよ。

(19) ⑤⑥「子の哭するや、壱に重ねて憂ひ有る者に似たり」を口語訳せよ。

(20) ⑧⑨を含む「昔者吾が舅虎に死し、吾が夫又死し、今吾が子又死せり」を口語訳せよ。

(21) ⑫⑬「小子之を識せ。苛政は虎よりも猛なり」を口語訳せよ。

E　内容・記述（22〜25）

（22）⑥「壱（いつ）に重（かさ）ねて憂（うれ）ひ有（あ）る者（もの）に似（に）たり」の「重ねて憂ひ有る」とは、具体的にはどのようなことだったのか。本文に即して説明せよ。

（23）⑩「何為（なんす）れぞ去（さ）らざるや」という問いに、婦人は⑪「苛政（かせい）無（な）ければなり」と答えた。婦人がこの土地を去らない理由を、わかりやすく説明せよ。

（24）⑬「苛政は虎よりも猛（まう）なり」と孔子が言ったのはなぜか。婦人の話をふまえて五十字以内で説明せよ。

（25）③「夫子（ふうし）式（しよく）して之（これ）を聴（き）き」から、婦人に対する孔子のどのような態度が読み取れるか。説明せよ。

F　故事・思想（26〜28）

（26）この話の出典の書名を、篇名もふくめて書け。また、その書物は儒家の経典の「四書」と「五経」のどちらに数えられるか。

（27）⑬「苛政は虎よりも猛（まう）なり」には、孔子（儒家）の政治についてのどのような考え方が表れているか。説明せよ。

（28）④「子路（しろ）」とはどのような人物か。簡単に説明せよ。

【テスト直前チェック】この三つ　❶「使ＡＢ」＝「ＡをしてＢしむ」。「子路をして之に問はしめて」＝子路に（婦人に）たずねさせて。「使」は書き下し文では平仮名「しむ」にする。　**❷「猛於虎」は比較で「虎よりも猛なり」。**同じ「於虎」でも「死於虎」は「虎に（よって）死ぬ」。二つの「於」の読み分けがねらわれる。　**❸婦人が去らないのは「苛政無ければなり」。**記述問題の答えは「家族を虎に殺されても、苛政のない土地のほうがよい＝苛政は虎よりおそろしい」に集まります。

▸ 漢文の参考書のおすすめ（楽天・Amazonのリンクつき）　kotennosennsei.com/kanbun-sankousho/　　▸ 解説記事にもどる